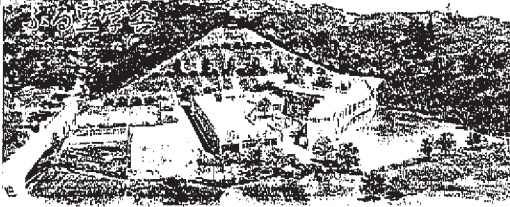


社会福祉法人 佑啓会



佑 啓

社会福祉法人 佑啓会 ふる里学会
〒290-02 市原市今富1110-1
☎0436-36-7611
発行者 里 見 吉 英
編集者 三 股 金 利

福祉のこころ

古川 弘

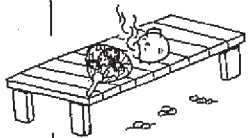
本年、第二十八回関東地区施設職員研究協議会主題「個人の生活の尊重とあたりまえのくらしを考へる」が、栃木県愛護のみなさんの総意によって提示されました。古くて新しい重要課題ですが、これらの課題の進む路は、どのようなものでしょうか？ まことに悲観的私見ですが、過去の幻影の背語りとしてお許し下さい。「永い歴史に培われた環境の閉鎖性、よく中せば保護的隔離性か？ 無意識的縦割り型生活様式のワンパターン。社会的資格要件の不安定は職員群と研究の専門性の希薄。勢い施設機能の専門性の弱さの結果は、入所利用者の保守的放任生活と自立心の欠如、勢い在所滞留化の放縦と家族の安易な協調、そして障害者のライフプランを曖昧にする。」こう申し上げてみると入所施設否定論にきこえますが、日常生活の中でふと模索してみると、うっかり見過ごしていることがあるかも知れません。過言の段、お許しください「あたりまえのくらしを考へる」論を、現実根ざした向上論として、新しい施設機能の発掘の足がかりとなることを期待したいと思います。

おく音の一幕です。かつての入所児が、結婚して子を育てている五十才の主婦です。この簡単明快さは、心を洗う爽やかさです。小児麻ひの身体障害の彼、その電話の音声は痛々しい「せーせい、生活苦しいよ。死にたいよ...」切実な電話の内容は、私の胸に突きささるのです。福祉行政への依存とか、常識論は、ふっと心をかすめるのですが、それよりも、自問自答の私を責める。一人でできる福祉の無力さを責めるのです。この二人の人達とおつきあいの中で考えさせられたこと、それは「福祉の心」とは、感傷ばかりではなく、機能的な社会機構や、福祉機能を前提とした市民意識に根ざした行動する心そのものと思ひました。

その意味で、本研究大会の重要さは、研究的成果は勿論ですが、日頃、各地で活躍されている関係者の思いを語りあうことで、また新たな明日への歩みが始まるように思ひます。そのふれ合いの中で、日常おつきあひされている障害者の顔々、AさんBさんの笑顔が浮かぶでしょう。

栃木の旅情のひとつ、格別。その新緑に安らぎを求めて、日頃の苦勞をいやすのも、本会の別の視点の成果となれば幸いと思ひます。

（佑啓会 理事長）



二 挨拶

渡部 繁治

ふる里学会開設三年目に入り、この度は、はからずも家族会の会長を仰せつかり、今更ながら責任の重大さを痛感しております。幸いにふる里学会は、他に見られない立派な建物・諸設備と指導に当られる先生方も、多年知の障害者の更生に携わってこられた方々で、そのような条件の備わった施設に、お世話になつてゐることは大変恵まれております。

またさらに、寮生は六十名余で決して小人数とは申しませんが、非常にどことなく家族的な雰囲気がある、温かみのある施設であることは皆さんも感じてきておられることと思ひます。これは先生方のチームワークと努力と工夫にかかつてゐるものと思ひます。

私達家族会としても、このような施設の方針に添つて、先生方の指導が円滑になされるよう、あらゆる協力をせねばならない訳であります。その意味で現在、実施されている家族会の行事は、施設の先生方と家族との交流、および家族間との交流を主目的に企画されております。このような機会に子供を中心とした今後の自立について、先生方と、また家族間で話し合いを重ね有意義なものとしたいものです。

ら社会活動をして、社会にその救済を訴えていくことができたのに対し、知的障害者は自分から社会活動ができないことが、大きな原因であると思われまふ。

従つて施設入所者・通所・生活ホーム等を問わず、私達その家族は、これを補うため、率先して障害者の社会自立を目指したいものです。そのためにはまず、私達の住んでいる街を見つめ直して、優しさを包み込む、隅いのある街づくりを推し進め、障害者のための支援の輪を広げることが、障害者自身に対する真の福祉であり、救済であると思ひます。

申し上げるまでもなく、ふる里学会では里見施設長を先頭に、すでに障害者たちが、この街に受け入れられるためのあらゆる工夫を尽くして、努力されていることはたびあることにお聞きしていただいております。

このような努力の積み重ねが障害者の自立の唯一の道であり、またこの道は遠い道のりでもありますが、今後家族会として、機会があるごとに、会話を広めて方向づくりに役立たせて参りたいと思つております。

（ふる里学会 家族会会長）

この度、郵政省郵務局切手文通振興課の御理解を得、左記の事業を完了致しました。ここに報告申し上げ、ご協力を賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

社会福祉法人 佑啓会
理事長 古川 弘

事業名 作業用車両の整備

事業費総額 一、八二一、八五八円

助成金 一、四〇〇、〇〇〇円

完了年月日 平成七年六月二十四日

寄附金付お年玉付郵便葉書等寄附金配分事業のお知らせ

厨房実習

厨房実習は2月1日から6月29日まで長い間でした。

さいしょに野菜を切ったりしました。さいしょにトマトを切ったときにきんちようしました。だんだんおぼえてきました。内田さんと石井さん井口さん伊藤さん永野さんにいっぱいおしえてもらいました。大根おろしを皿に盛りつけるのがおもしろかったです。テッパンにアルミホイルをひいたり、サララップをおボンの上にひいたりしてすごむずかしいなと思いました。でも、とてもうれしかったです。

厨房実習できゅうけいしたり仕事したりするのにけじめをつけなくちゃいけないと思いました。

いわれたことをまぢがえちゃいけないと思いました。テッパンにアルミホイルをひくのにおおきかったりちいさかったりして内田さんにおこられました。おぼんのこばちにサララップをかぶせるのに、みじかくなってしまいおこられました。僕はくやしくて涙がでました。泣いてもなんかいまやりのおしをさせられることがきびしかったです。でも、石井さん永野さん伊藤さん井口さんがやさしくてせいかくがよいと思いました。

注意もされたけどすごたのしかったです。

7月よりグループホームに入居し、レストラン高澤で実習を行っている伊藤智美君に厨房実習を終えての感想を寄せていただきました。

今年も早いもので、すでに半年が過ぎてしまいました。この半年の間では、阪神大震災・地下鉄サリン事件、お隣韓国ではテパートの崩壊と暗いニュースが続きました。ところで学舎からは、明るいニュースをお知らせします。I君はグループホームへ、O君は通勤寮へと巣立とうとしています。今後も温かい目で見守り、応援していきたいと思っています。

編集後記

指導員 東瀬戸 徹

この度、「ふる里学舎」関係各位のご配慮で研修会のご案内を頂き、妻にも勧められて、斉藤先生のお話を承る機会に恵まれました。日頃、心の隅に在る漠然とした不安めいたものが、一挙に晴れるかも、等と云う期待(と云うより下心)を忍ばせながら席に座った次第でした。しかし、昭和五十二年生まれの我が子は、先輩の粘り強い活動が実を結び、福祉がカタチをなした、丁度、その時期に居合わせたのでした。

「療育センター」での訓練で自立歩行が可能になり、「第二養護」、「緑ヶ丘養護」、そして先日までの「市立養護」での集団生活と御指導を、極めて当り前として過ごして来た自分の

あのテレビを観て、大分時間が経過しておりますので、言葉の端々は正確に記憶しておりませんが、この子の様な人は、親に殺されるか、さもなければ施設に入れられるしかないんです。四十才近い男性の障害者を抱えた初老の女性がブラウングラスの中で語っておられたのでした。親に云々、と云う言葉の重さもある事ながら「施設に入れられるか」という部分に、親としての無念さ、やるせなさを感じさせられ、心の隅に、あの言葉が残っておりました。

私ももの子供は、今春、千葉市立養護の高等を卒業し、市原の施設に「通所」でお世話になっております。

昨年の夏頃から、卒業後の進路選択のために何ヶ所かの施設を見学させていただきまして、そうして、最終的に判断する段階で、夫婦の間で出た言葉は、「いずれ、施設に入所させて貰わなければならなくなるけど、頑張れる間は通所で……」と云う事でした。

「その人なりに世の中に」

不明さを、先ず反省させられました。先生の発言通り、「育たなかった福祉」と云う側面はあるのかも知れません。しかし、様々な福祉の道具立てが整備されて来た歴史的な背景を、認識し直さねば、と痛感させられた次第でした。そして、お話が進行して行く中で、冒頭に述べた初老の女性の、私共夫婦の言葉を思い出して家族の一部分に相当する、新しいテーマなのではないか、と思いがちでした。

何より、「当事者」が先ず考えるべきテーマなのだ。

核家族化と、高齢化の進行、と云った中で、「金のかかる福祉」が、社会(人々)の合意として認知、維持されなければ、「未来と家族」は秘められたものに、逆戻りしかねないと思えます。

「親も子も、その人なりに違和感なく世の中に」存在する権利と義務を明るく全うしなければ、と云う思いを深くしました。

先生のお話にあった「地域と社会に開かれた施設づくり」は、未来を考えるうえで、大切なことのひとつだと思えます。

そうした事に、当事者として何がしかの参画をする事が、福祉を育み、そして自らの心の平穩を得る大切な要素なのだと云う思いで一杯です。

水沼 喜一

六月十一日、学舎と家族会の共催により、講師に横の木の学園施設長・高橋茂先生をお招きし、「千葉県障害者福祉の過去・現在・未来、そして家族」という演題のもと、研修会が行われました。

今回も学舎を利用した方に声をかけ、参加されました水沼さんに感想をお寄せいただきました。



ハネムーン・カナダ

カナダではナイアガラ、バンフ、バンクーバーを中心に観光してきました。ツアーのメンバーは新婚さん二組の二名で、右も左もいちゃいちゃ、ベタベタ、カメラを右手に、ビデオカメラを左手にといった感じで、二人だけの世界を皆さんつくっておられました。しかし、ただでさえ暑

生は暑がでてきたり、川の水は澄み湖の色はエメラルドグリーン、山々は日本とは折違いでスケールが大きく雄大でした。またナイアガラ滝では、滝壺近くまで行く遊覧船に乗ったのですが、乗船する時に全員レインコートを着込み、滝の近くに来ると嵐のような感じで、船は左右に揺られ、大雨のように水しぶきがとび自然の驚異を身を感じました。その他印象に残ったことは食事のことで、日本では追伸、帰国して最初に食べたのは、とんかつでした。

指導員 在原 寿



「皆さん、次の場所では一〇分間ほどバスを停車します。大変きれいな場所なので、たくさん写真を撮ってください。」と添乗員さんの声。一番印象に残ったことはこの言葉ではないだろうか。私は六月四日に結婚式を挙げ、温かい上司と同僚の目をよそへ、たくさんのお休みを頂き、七泊九日でカナダにハネムーンに行ってきました。

苦しい体型をしている私にはかみさんはくつついてはきませんでした。それでもせっかく旅行にきたのだから写真を持ちなけりゃ、という気持ちになり暇さえあればシャッターを押していました。

カナダの感想といいますが、みなさんがイメージされるのとおりといいますが、とにかく自然が多く、景色がきれいでした。行く先々にリスがいたり、庭前に野

油つこい物が大好物で周りから「食生活は外人だな」と言われる私も、さすがに毎日油っこいものばかりで、うんざりしてしまふ今頃は食欲をなくすほどでした。この度は長期間休暇を頂きご迷惑をおかけしましたが結婚を機に、心機一転頑張りたいと思います。

これからよろしく願います。